SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

vol.79

平成23年11月1日発行

（社）栃木県サッカー協会事務局
〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330
URL http://www.tfa.or.jp/
発行責任者：石﨑忠利

contents

❶ 女子ワールドカップ　安藤・鮫島両選手凱旋
❷ 栃木トヨタカップ　第16回県サッカー選手権大会
❸ 第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会
❹ 第12回東日本社会人サッカー大会の観戦記
❺ 第47回全国社会人サッカー選手権関東予選
❻ 第18回全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会
❼ 高校連盟より／大会結果
❽ 関東大会に参加して
❾ クラブユース関東大会／日本クラブユース選手権（U-15）
❿ 第４種委員会委員長あいさつ／ＪＡ全農杯チビリンピック
⓫ 第35回全日本少年サッカー大会栃木県大会
⓬ 第１回北関東Ｕ-12サッカー大会
⓭ 両毛アカデミーへの期待
⓮ キッズアカデミーＵ-９in 両毛
⓯ フットサル連盟発足６年を迎えて
⓰ 30周年を迎えた女子連盟
⓱ 井上綾香選手、Ｕ-16日本代表に
⓲ JFAフットボールデー
⓳ 審判委員会／技術委員会
⓴ 賛助会員ご芳名

女子ワールドカップ
なでしこ世界一　県内も熱狂
安藤・鮫島両選手が地元凱旋

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

女子ワールドカップ「なでしこジャパン」優勝！安藤・鮫島両選手が地元凱旋

宇都宮市役所凱旋

6月26日～7月17日にかけてドイツで開催された、2011第６回FIFA女子ワールドカップ。決勝まで進んだ日本代表「なでしこジャパン」は初優勝を懸け、アメリカと対戦、粘りに粘りＰＫ戦までもつれ込んだ末、世界ランク１位の米国を破り、悲願の金メダルを獲得した。

日本女子代表が年齢制限のない世界大会で決勝に進んだのは初めてで、アメリカとの過去の対戦成績は日本の３分け２１敗。ワールドカップでは世界選手権を含めて２度の対戦があるが、1991年中国大会では１次リーグで０－３、1995年スウェーデン大会では準々決勝で０－４と敗れている。当時の国際サッカー連盟（FIFA）のランキングは米国が１位で日本は４位であった。

なでしこジャパンは、予選リーグでイングランド、メキシコ、ニュージーランドと対戦し、２位で決勝トーナメントへ進出。準々決勝はドイツを１－０で、準決勝はスウェーデンに３－１で勝利し決勝へ進んだ。

日本女子サッカー界の歴史に残る激闘を制したなでしこジャパンの中心選手として、決勝を含め６戦すべてに出場活躍した、本県・宇都宮出身のＦＷ安藤梢選手（河内ＳＣジュベニール・宇女高－筑波大大学院、独・デュイスブルク）、ＤＦ鮫島彩選手（河内ＳＣジュベニール・田原中－宮城・常盤木学園高、仏・モンベリエ）の攻守にわたって存在感を示した２人の活躍に県民をはじめ県内サッカー関係者から称賛の声があがった。

両選手は7月21日、そろって地元に凱旋し、県庁や宇都宮市役所で優勝報告し、大勢の県民、市民ファンから祝福を受けた。今回の快挙に対して、両選手に栃木県は県民栄誉賞を授与し、宇都宮市は市民栄誉賞授与を予定している。

今後はロンドンオリンピックでの優勝を目標に、現在は海外チームに所属している両選手のますますの活躍が期待される。

栃木トヨタカップ第１６回県サッカー選手権大会

栃木トヨタカップ第１６回県サッカー選手権大会（県サッカー協会主催、下野新聞社、共同通信社共催、栃木トヨタ自動車特別協賛）は、天皇杯の出場権を懸け、1回戦８月７日、準決勝８月１４日、決勝８月２８日の日程で、県グリーンスタジアムで開催された。

１回戦は２試合を行い、作新学院大学（第１種代表）が３－０で矢板中央高等学校（第２種代表）に完勝し、ヴェルフェたかはら那須（関東リーグ１部）が２－１で真岡高等学校（第２種代表）に勝利し準決勝に進出した。

作新大は前半２０分、ＭＦ益子直樹のＦＫにＭＦ吉田雄飛が右足で合わせて先制し、後半２分にはＭＦ高部健、１１分は益子直が追加点を挙げた。

両チーム無得点のまま後半に入り、ヴェルフェは後半２５分、ＤＦ古泉達也のクロスにＦＷ井上卓則がヘディングで先制。真岡高は４２分にＭＦ宮川優作が同点となるシュートを決める。最終的にはロスタイムにヴェルフェのＦＷ阿久津草太が

左サイドからゴールを決め勝利に導いた。

作新学院大学
３（１－０、２－０）０
矢板中央高等学校

ヴェルフェたかはら那須
２（０－０、２－１）１
真岡高

準決勝はヴェルフェたかはら那須が１－０で作新学院大学に勝利し、３年連続決勝進出を決めた。

前半は両チームとも得点を挙げられず後半へ。ヴェルフェは後半１５分、途中出場のＦＷ井上卓則のループシュートで先制し、その１点を守りきり勝利した。

ヴェルフェたかはら那須
１（０－０、１－０）０
作新学院大学

決勝ではヴェルフェたかはら那須と前回覇者でシードの栃木ウーヴァＦＣ（ＪＦＬ）との対戦となり、延長までもつれこみ、栃木ウーヴァＦＣが１－０でヴェルフェたかはら那須に競り勝ち、２年連続４度目の優勝に輝いた。

栃木ウーヴァは０－０で迎えた延長前半ロスタイム、ＭＦ浜岡和久の左ＣＫからＦＷ若林学のヘディングで決め勝利した。

ヴェルフェは何度かカウンターで得点機をつくったものの無得点。延長後半も果敢に攻撃を仕掛けたが、追いつくことはできなかった。

栃木ウーヴァＦＣ
１（０－０、０－０、延長、１－０、０－０）０
ヴェルフェたかはら那須

優勝した栃木ウーヴァＦＣ

優勝した栃木ウーヴァＦＣは、９月３日開幕の第９１回天皇杯全日本選手権大会に出場。栃木市総合運動公園陸上競技場で柏レイソルＵ－１８（千葉、６年ぶり２度目）と対戦。

第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会

９月３日に開幕した「第９１回天皇杯全日本サッカー選手権大会」は、全国各地で１回戦を開催し、本県代表の栃木ウーヴァＦＣ（２年連続４度目）は、栃木市総合運動公園陸上競技場で千葉県代表の柏レイソルＵ－１８（６年ぶり２度目）と対戦、栃木ウーヴァＦＣが１－０で勝利し２回戦に進出した。

両チームとも得点できないまま後半へ。栃木ウーヴァは後半３分、相手ＧＫのミスでこぼれたボールをＦＷ若林学が押し込み試合を決めた。

２回戦は１０月８日に行われ、栃木ウーヴァは千葉県柏市の柏の葉公園総合競技場でＪ１柏レイソルと対戦。

栃木ウーヴァ
１（０－０、１－０）０
柏レイソルＵ－１８（千葉）

〔広報委員長　　村上富士夫〕

第12回東日本社会人サッカー大会の観戦記

社会人連盟会長　中山　国和

この大会は、北海道・東北・北信越・関東・東海地区の競技力の向上ならびに組織力と運営能力の強化を図ると共に、サッカー関係者の交流・親睦を図る大会である。

また、地域リーグの優勝チーム又は地域ベストイレブンを主体とした地域リーグ選抜あることを原則とするとともに、平成２３年度国体選抜チームも認められている為、関東代表として、栃木県国体選抜チームが出場しました。期間は７月１６～１８日の３日間でした。

社会人連盟役員として私と鈴木理事長そして技術委員長の福田氏も参加しました。

宇都宮を６時３０分に出発し、鈴木理事長の安全運転で１０時３０分に松本平広域公園総合球技場（アルウィン）に到着し、開会式に臨みました。その後浅野監督及びスタッフを激励しました。

第１試合は、北海道代表ノリブリッツ北海道チームと対戦し、前半の立ち上がりは五分五分でした。しかし、１４分右サイドから崩され得点を許してしまい、その後反撃に出るが０対１のまま前半が終わる。後半に入り５２分に右サイドからセンターリングを折返し、そのボールを高安選手がヘディングシュートを決め同点とする。その後主将の高木選手が負傷し交代するアクシデントがありましたが、６９分高安選手がパスカットしたボールを自らドリブルシュートを決め勝ち越しました。
１回戦を突破し、変則トーナメントである為にあと２試合が出来ることになりました。今大会は、日程が３日間あり敗者復活戦を取り入れ交流・強化を狙った大会でありました。

交流のもう１つが役員交流である。歓迎レセプションが松本第１会館で行われ開催県の長野県代表を始め、各チームの決意のコメントが述べられました。

２日目、地元の長野県代表と対戦、勝てば決勝。しかし、試合はそんなに甘くないことになる。試合結果は０対３、試合内容もシュート５本はセットプレーからそして４本はＤＦの栗原選手です。長野県もシュートは１０本ですが３得点です。選手も不満の残るゲームになってしまったのではないかと思いました。

試合前に鈴木理事長と松本城を見学し、試合後はＮＨＫで放送中の「おひさま」の安曇野に行き、撮影ロケされた場所で「心のリフレッシュ」をしてきました。

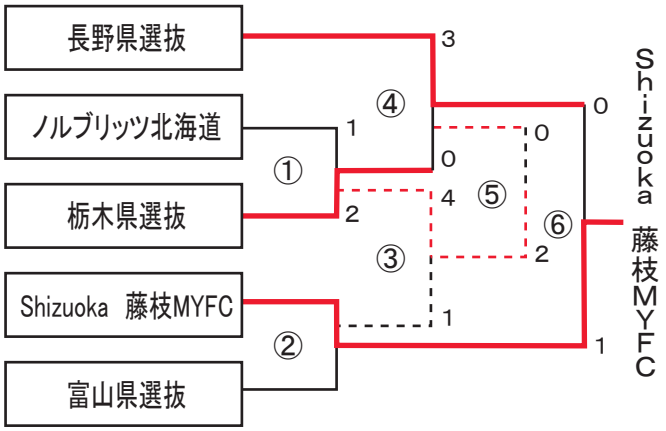
３日目、１回戦で対戦後に敗者復活から勝ち上がった北海道代表と再度対戦となりました。結果は、残念ながら負けてしまいました。試合後浅野監督にねぎらいの声をかけ、国体に向けて奮起を促しました。尚、優勝は藤枝ＭＹＦＣ，準優勝は地元長野県選抜でした。

３試合を見て気がついた点は、シュートの精度が悪かったこと。また、戦術的なことは監督に任せ、国体強化の大会に位置づけで望んだ大会ですので、国体関東予選までに負傷者のケアーやチームのレベルが上がるのを期待しています。

この大会中、女子ワールドカップ決勝が早朝に行われ、個人的に知り合いである安藤梢選手、そして鮫島彩選手をホテルにて一人で応援していました。このすばらしい勝利は我々に感動を与えてくれ、歴史的１ページの達成に酔ってしまいました。

最後に、この大会に関わった関係者や開催地の長野県サッカー協会の方に感謝申し上げ観戦記とします。

第１２回東日本社会人サッカー大会　結果



第1位　Shizuoka　藤枝MYFC
第2位　長野県選抜
第3位　ノルブリッツ北海道
第4位　栃木県選抜
第5位　富山県選抜

第４７回全国社会人サッカー選手権 関東予選を振り返って

宇都宮フットボールクラブ
監督　内田　裕

会場：姉崎公園姉崎サッカー場（天然芝）
2011/6/26 11:00キックオフ
宇都宮フットボールクラブ（栃木県代表）
１（１－１、０－２）３
千葉教員（千葉県代表）

宇都宮FCは知事杯で４年ぶりに優勝し、久しぶりに全国社会人サッカー大会の関東予選の栃木県代表になり、全国社会人サッカー選手権の関東予選に出場を決めた。ここ2年間はリーグ戦でも2位、優勝と県内リーグでは上位を狙えるチームになってきたが、関東社会人サッカー大会では、いずれも初戦敗退と結果が出せていない。この悔しさを糧に、今年は県リーグ優勝だけでなく、関東大会でも勝てるチームにすることを目標に掲げているなかで戦った関東予選初戦：千葉教員（千葉県代表）を振り返ってみたい。

試合には怪我や仕事の都合で参加できない選手がいた為、ベンチには交代出場ができる選手が実質2名しかいない苦しい状況で臨むことになった。

立ち上がりは両チームとも様子見の所があり静かな展開ではあったが、相手の縦に速く、攻撃的なポジションの技術の高い選手を中心としたサッカーで主導権を握られてしまう。そんな中、宇都宮FCもDF陣がボールを奪取してから中盤でしっかりとボールを保持し、徐々に自分たちのサッカーが通用する時間帯を作り出すことができ始めた前半20分過ぎに、先取点を奪取。この得点でチームは落ち着き、ボールをしっかりと保持しながら攻撃を組み立てる自分たちのサッカーを展開することができるようになったが、中盤での不用意なパスを相手に奪われ、ショートカウンターを受け失点し前半を1-1で折り返すことになった。

後半はボール支配率を高め、決定機も作りながらも得点には繋げられず、相手の素早いカウンターを受けるという展開に。どちらのチームが勝ってもおかしくない状況で後半ロスタイムまで進んだが、中盤でのミスを相手に突かれ逆転を許してしまった。その後同点を狙い攻め急いだところを再び失点し1-3で敗戦となった。

試合内容としては、自分たちのサッカーができる時間帯を多く作ることができ、その時間帯に得点できたことが収穫であり、これまでの関東大会ではできていなかった部分だと感じている。ただ、ここ最近の知事杯の決勝やトヨタカップ出場決定戦、リーグ戦序盤戦など、試合終盤に失点する悪い展開をこの試合でも繰り返す結果となってしまった。

これは、選手の怪我や仕事の事情などによって数人抜けると、苦しくなるチーム事情が影響してしまっている。また、選手個々のスキルをみても、十分通用する選手もいるが、まだまだその人数が

少ないと思う。これは栃木県社会人サッカーの多くのチームに言えることだと思うが、やはり関東レベルのチームと試合を戦う上では、選手層を厚くすることは非常に重要だと痛感した。

近年、県内の大学や高校から栃木県内の社会人サッカーチームで活動を続ける選手があまり多くない。まずは栃木県内の社会人サッカーに興味を持てもらえるようなチームを作り、継続的に関東レベルの大会で良い結果が残せるチームを多くするために、他のチームと共に栃木県社会人サッカーの全体的なレベルUpを行っていきたい。

また、今年は関東社会人サッカー大会が栃木で開催されるので、今大会での経験を活かして、まずは県リーグ優勝を目指し、関東大会で活躍できるチーム作りをしていきたいと思う。

第１８回全国クラブチームサッカー選手権大会栃木大会に参加して

足利クラブ　春山 芳夫

会場：鹿沼自然の森サッカー場他

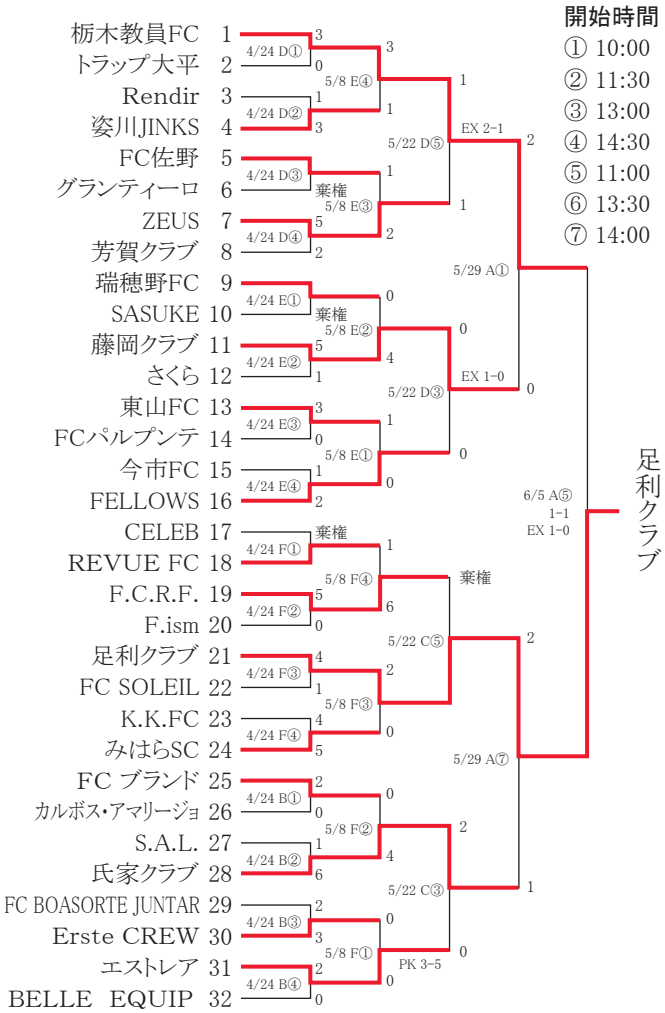
期日：2011/4/24、5/8、5/22、5/29、6/5

4年前に同大会で優勝してから、同大会ではベスト4止まり、リーグも3年連続２位の状況を打開する為、シーズン前にミーティングを開き、問題を分析し、練習及びゲームプランを再検討した。又、ゲーム前にゲームプランを再確認し、ゲーム終了後の反省会を行って大会にのぞんだ。

準決勝では昨年敗北した氏家クラブとの対戦となった。雨でピッチコンディションの悪い中、先に失点しないよう守りから入り、前半１点、後半１点を取り勝利できた。決勝では苦手意識のある栃木教員FCとの対戦。昨年はPK戦で勝利した相手、守備力のあるチームなので失点しないよう確認したが、前半早々フリーキックで失点を許し、苦しい展開となった。その後、有利にゲームを進めたが、点がとれず、それでも全員ゲームを諦ず、後半ロスタイムに同点とし延長戦で勝利した。

ゲーム前のミーティングで失点しても諦めず、最後まで走りきろうと確認しゲームのぞみ、勝利をつかんだ大会だった。

リーグ及び関東大会では、再度チーム戦術を見直し、大会にのぞみ、結果を出したい。



会　場

A 鹿沼自然の森サッカー場
B 石井緑地（4）
C 足工大グランド
D 真岡勝瓜グランド
E 真岡鬼怒自然A
F 真岡鬼怒自然B

1.高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林　宏至

現在、高校連盟は、６４校が県高体連に加盟し、各大会に参加しています。

大会は、従来より実施されてきた、県新人大会、県総体兼関東予選、全国総体予選、全国高校サッカー選手権栃木大会に加え、ユースリーグを年間通じて行っています。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整理され、現在１～３部制で実施しており、各グループ２回総当たりで試合数も確保されているところです。また、選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、１校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

昨年度は１部で真岡高校が優勝し、関東プリンスに昇格しました。これによって、今年度は、矢板中央高校、佐野日本大学高校、真岡高校の３校が関東プリンスリーグ２部に参戦し、関東１部昇格、そして全国プレミアリーグ昇格を目指し、健闘しています。

県内大会に目を向けてみると、４月から５月にかけて行われた、県総体兼関東大会予選においては、宇都宮高校と宇都宮白楊高校の決勝戦となり、宇都宮高校が２対１で勝利し１５年ぶりの優勝を果たし、準優勝の宇都宮白楊高校とともに、第５４回関東高校サッカー大会に出場しました。

６月に行われた全国高校総体予選においては、矢板中央高校と宇都宮白楊高校の決勝戦となりました。接戦でしたが、１対０で矢板中央高校が勝利し、秋田県で開催されるインターハイ出場を、２年ぶりの出場を決めました。

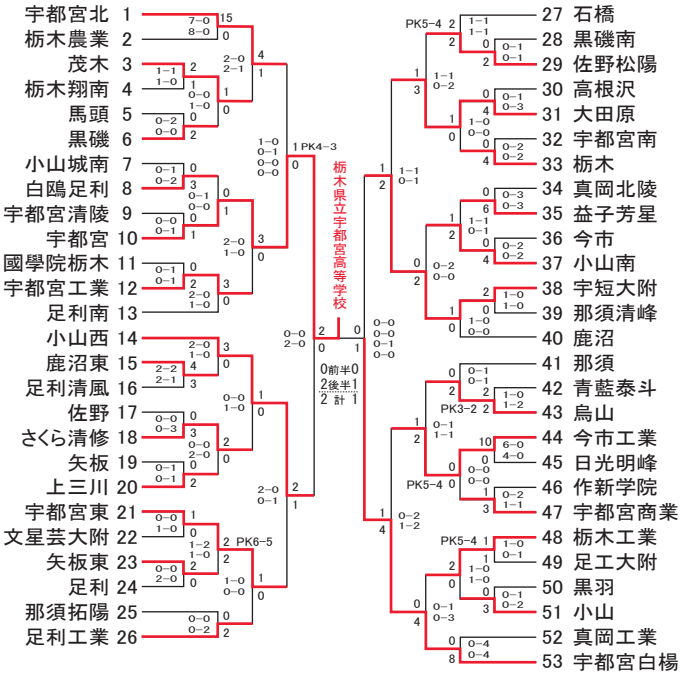
また、１０月に開催される全国高校サッカー選手権栃木大会の出場校が、推薦出場の８校と、８月に行われた１次予選を勝ち抜いた１６校の計２４校が出揃いました。

各校とも各大会に向けて日々練習に励んでいるところです。県内で切磋琢磨し、上位大会で活躍できるよう、栃木県の高校のレベルアップを図り、日本を代表するような選手が育つようにしていきたいと考えています。

2.大会結果

①関東大会県予選会

宇都宮高校(9年ぶり8度目) 関東大会出場
宇都宮白楊高校(2年ぶり13度目)関東大会出場

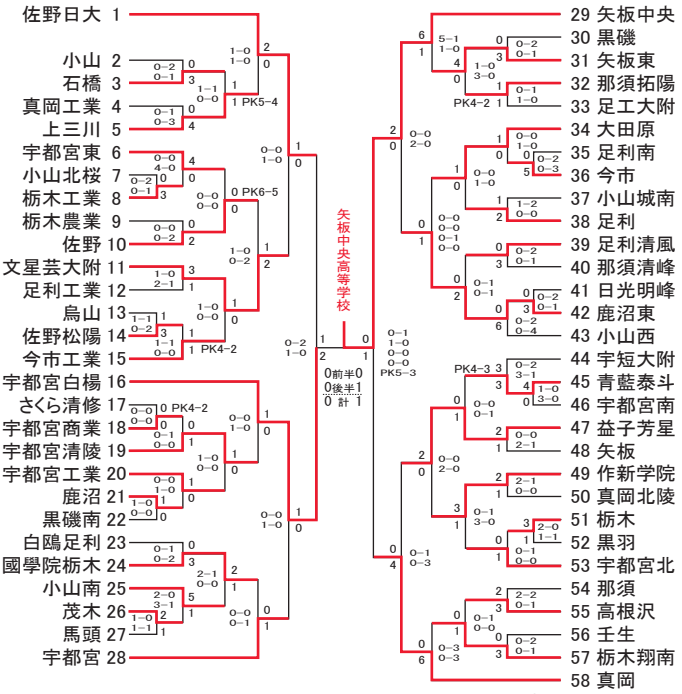


優　勝：栃木県立宇都宮高等学校
（15年ぶり4度目の優勝）
（ 9年ぶり8度目の関東大会出場）
準優勝：栃木県立宇都宮白楊高等学校
（ 2年ぶり13度目の関東大会出場）

第3位：栃木県立小山西高等学校
〃　：宇都宮短期大学附属高等学校
第5位：栃木県立宇都宮北高等学校
〃　：栃木県立今市工業高等学校
〃　：栃木県宇都宮東高等学校
〃　：栃木県立大田原高等学校

②インターハイ県予選会

矢板中央高校(2年ぶり5度目)インターハイ出場



優　勝：矢板中央高等学校
（2年ぶり5度目の優勝）
（2年ぶり5度目のインターハイ出場）
準優勝：栃木県立宇都宮白楊高等学校

第3位：栃木県立真岡高等学校
〃　：佐野日本大学高等学校
第5位：栃木県立小山西高等学校
〃　：栃木県立宇都宮高等学校
〃　：栃木県立益子芳星高等学校
〃　：文星芸術大学附属高等学校

選手権大会栃木大会出場校24チーム決定！

（インターハイベスト８＋一次予選会通過１６チーム）

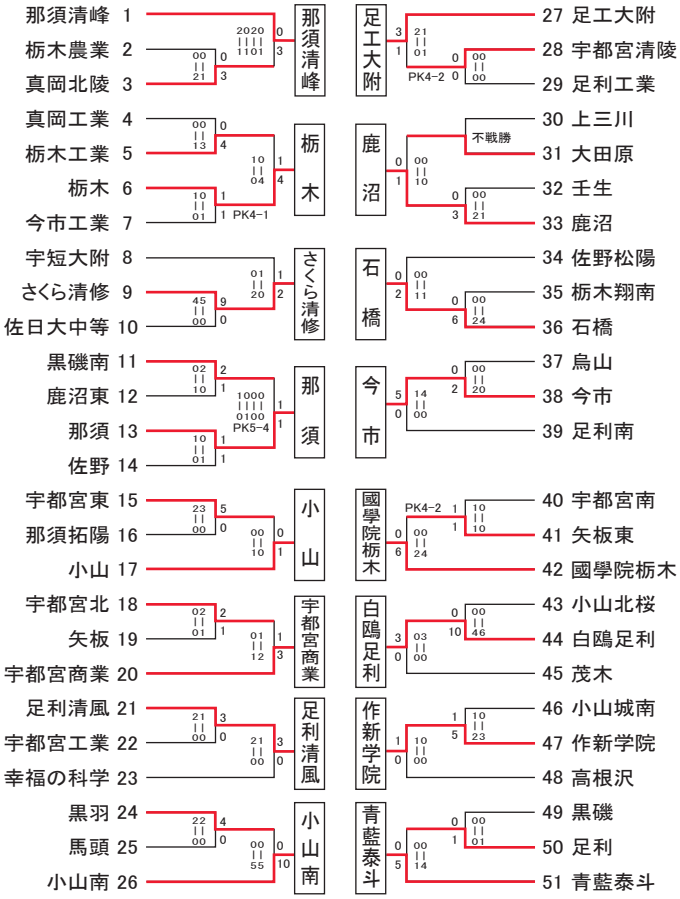
推薦出場８チーム（インターハイベスト８）

矢板中央	宇都宮白楊	佐野日大
真岡	宇都宮	益子芳星
小山西	文星芸大附	

一次予選通過１６チーム

那須	白鴎足利	鹿沼
今市	作新学院	石橋
小山南	宇都宮商業	青藍泰斗
栃木	國學院栃木	小山
那須清峰	さくら清修	足工大附属
足利清風		

平成23年度 第90回 全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選会 結果
平成23年8月5･6･8日



3.関東大会に参加して

①宇都宮高校

主将　櫻岡直也

１５年ぶりに県制覇を成し遂げ、関東大会出場を勝ち取ったあの日、僕たちは無上の喜びに浸っていた。ところが、次の関東大会では高い壁を前にして自分たちの力不足を痛感した。僕たちは県優勝を目標に掲げ、達成はしたものの悔いの残る結果となってしまった。しかし、大変貴重な経験し、またその悔しさを力に変え、より一層引退まで部活動に励むことができた。関東大会出場にあたり、小田林先生をはじめ、支援してくださったＯＢの方々、そして家族に大変感謝するとともに、皆で勝ち取った栄冠であったと私は確信している。

②宇都宮白楊高校

監督　只木　章広

「ワールドカップに出場する日本代表と同じ、良い調整をして結果を出す。」といって、良い練習環境と練習試合を組み１回戦厚木北戦に臨んだ。ボール支配率ではかなわなかったが、相手陣地でボールを奪い攻撃する。カウンターを効果的に効かせ勝利することができたとは言っても、バイタルエリアに侵入され失点してもおかしくない厳しいゲームであった。

２回戦「帝京は名前がある。破ることができれば一歩前進できる」と選手に声を掛け送り出した。帝京は身体能力に優れ勝負強さがあり、こちらの決定機の直後に隙を突かれ失点してしまった。関東大会出場という貴重な経験をさせていただいた多くの関係者に感謝を申し上げたい。

栃木県クラブユース連盟会長

大金　弘

2011年４月より栃木県クラブユース連盟の会長に選任されました大金弘です。

クラブ連盟の為に、ご尽力いただきました前任者の糸井悦夫氏の後任ということで、正直荷が重いと感じています。至らない点も多いかと思いますが、各チームの理事の方の御協力をお願いしまして、選手のよりよい成長の場としての良い環境を整えられるように、運営を考えていきたいと思います。任期の間、県協会、サッカー関係者の皆様のご支援、御協力をお願いいたします。

最後になりますが、東日本大震災にて被災されました皆様に心よりお見舞い申しあげます。また、被災地の迅速な復興を心よりお祈り申し上げます。

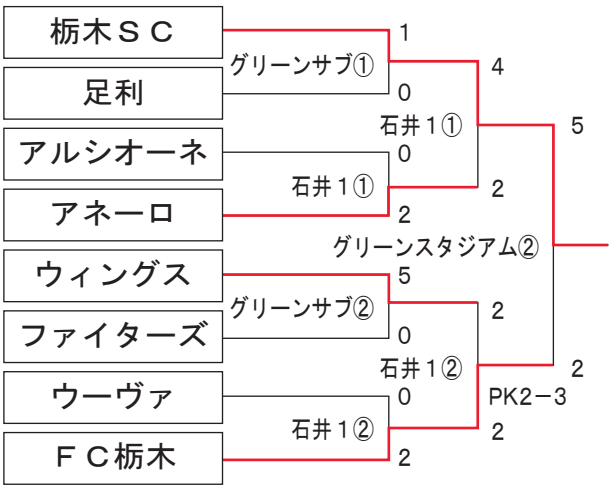
クラブユース関東大会の感想

ヴェルディSS小山
監督　石田浩之

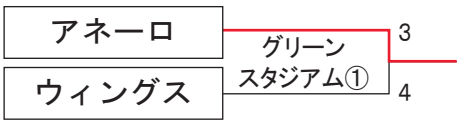
我々、ヴェルディSS小山は、関東リーグU-15（２部）に参戦しておりクラブユース関東大会からの出場となります。

クラブユース関東大会直前までリーグ戦が行われており、選手のコンディションも悪くカップ戦への切替えもイマイチ付かぬままの1回戦でした。結果、勝利しましたが選手達の疲れはピークに感じられました。目標は、全国大会出場でしたが2回戦での敗退で大会を終えました。また、新たな目標を設定し前進して行きたいと思います。

決勝トーナメント



３位決定戦



日本クラブユース選手権（U-15）関東大会を振り返って

栃木ＳＣジュニアユース
監督　花輪浩之

栃木県大会では苦しみながらもなんとか優勝して、栃木県第一代表として関東大会に挑戦することができた。その関東大会では一回戦で埼玉県代表のFC深谷に０－２で敗れた。内容・結果ともに完敗であった。会場が平出サッカー場だったため、多くの声援があったにもかかわらず自分たちのプレーが全くと言っていいほど出来なかった。相手チームの選手と比べて個人個人の力の差はそれほどなかったと思うが、攻・守両面においてチームとしての戦い方の徹底の差が敗れた大きな原因だと感じた。チームを指導・指揮する立場として本当に悔しい原因、そして一戦だった。この試合、選手たちは本当に最後まで勝つために必死にプレーしていた。だからこそ私自身も、選手たちと一緒に今後さらに努力して、秋の高円宮杯では成長した姿を見せたい。

<栃木ＳＣジュニアユース>

<ＦＣ栃木>

第４種委員会
◇高瀬利明委員長あいさつ

４種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、栃木県の子どもたちの健全育成のため、陰に陽にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、東日本大震災により、東北地方をはじめ、本県および関東地方も多大なる被害を受けました。私は各大会のあいさつの中で子どもたちに「サッカーができる喜びを忘れず、被災してサッカーができない仲間の分まで精一杯がんばってほしい。」と話してきました。元気にボールを追いかける子どもたちを見ると、本当に感慨深いものがあります。

今後とも「プレーヤーズ・ファースト」の精神を忘れず、４種委員会の活動を充実させていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

JA全農杯チビリンピック2011
小学生８人制サッカーIN関東

東日本大震災の影響で、３月に実施するはずだった本大会が、4月9･10日の二日間、大田原市の美原公園陸上競技場で行われました。

本県からは、栃木SCジュニアが参加しました。レベルの高い関東の強豪チームが集合し、ハイレベルな好ゲームが繰り広げられました。栃木SCジュニアはバディサッカークラブ千葉（千葉）に快勝しましたが、前年度優勝の川崎フロンターレU-12（神奈川）に敗れ、決勝トーナメントへ進出できませんでした。

優勝は川崎フロンターレU-12で全国大会へ出場しました。（全国大会でも優勝）

第35回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

6月5･12･19日の３日間、宇都宮市の平出サッカー場などで、全国大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。

大会前日には「ボールへの集い」としてイベントが行われました。６年生はリフティング大会、５年生は１対１のゲーム、４年生は地区対抗戦と観客も大いに盛り上がりました。

大会で決勝に進出したのは、新人大会を制した栃木SCジュニアと強豪JFCファイターズでした。１点を争う好ゲームとなりましたが、均衡を破った栃木SCジュニアがJFCファイターズの反撃をかわし、初優勝を飾りました。

＜堂々の選手宣誓＞

＜６年生のリフティング大会＞

＜５年生の１対１のゲーム＞

＜４年生の地区対抗戦＞

＜優勝の栃木ＳＣジュニア＞

＜準優勝のＪＦＣファイターズ＞

＜第３位 ＴＥＡＭ リフレサッカークラブ＞

＜第３位 坂西ジュニオール＞

第１回北関東U-12サッカー大会

７月３０・３１日群馬県にて第１回の北関東大会が開催されました。本県からは、今市第三カルナヴァル、昭和・戸祭サッカークラブ、FCプリメーロ、FCアネーロ宇都宮U-12が参加しました。FCアネーロ宇都宮U-12と昭和・戸祭サッカークラブは、予選リーグを全勝で決勝トーナメントへ進出。FCアネーロ宇都宮U-12が決勝でばらきサッカークラブ（茨城）を破り、記念すべき第１回大会で優勝を飾りました。

第３５回全日本少年サッカー大会

８月２日から６日にかけて、静岡県で行われました。本県代表栃木SCジュニアは予選リーグでソレッソ熊本、アルビレックス新潟、エスポルチ秋田と対戦しましたが、３試合とも僅差で敗退し、決勝トーナメント進出はなりませんでした。

第３５回関東少年サッカー大会

８月２０・２１日、那須塩原市青木サッカー場を中心に大会が行われました。栃木県からは、JFCファイターズ、TEAMリフレサッカークラブ、坂西ジュニオールの３チームが参加しました。JFCファイターズは２位パート、TEAMリフレサッカークラブと坂西ジュニオールは３位パートで奮闘しました。

優勝は、決勝でバディサッカークラブ（神奈川）を破った鹿島アントラーズジュニア（茨城）でした。

第33回利根コカコーラ杯争奪東関東少年サッカー大会

８月２８日、茨城県のひたちなか市で大会が行われました。本県からは６年生の部に宇河トレセンと塩南トレセン。５年生の部に上都賀トレセン、芳賀トレセン、下都賀トレセン、両毛トレセン。４年生の部に北那須FCと栃木県トレセンが参加しました。６年生の部では、本県の２チームでの決勝戦となり、宇河トレセンが優勝、塩南トレセンが準優勝でした。５年生の部でも下都賀トレセンが優勝、両毛トレセンが準優勝でした。上都賀トレセンは予選リーグで１勝１敗、芳賀トレセンは２敗でした。４年生の部では北那須FC、栃木県トレセンともに予選リーグ１勝１敗と善戦しました。

県キッズ委員会より

キッズ委員会委員長　金井　理

栃木県でも、キッズの取り組みが徐々に各地区へと広がり、係わりを持ってくださる指導者や保護者の方々が増えてきて大変嬉しく思います。

県キッズ委員会では、「栃木のサッカーをキッズから盛り上げよう」と頑張っている所です。また、各地区においては、フェスティバルやアカデミーを積極的に運営していただき大変感謝しております。

これからの栃木県のサッカーの底上げには、種別を超えて指導者の皆さんや子ども達に関わる大

人が、どれだけキッズ年代の子ども達にアプローチしていくかにかかっているといっても過言ではないと思います。

そのためにも、今後この紙面を通して県内各地区の取り組みについて紹介し、キッズの取り組みに興味を持っていただけたら幸いです。

両毛アカデミーへの期待

キッズ委員会副委員長　稲垣　浩充

2007年にＪＦＡのキッズエリートプログラムが始まりました。栃木県では、2009年に「とちぎキッズアカデミー」としてＵ－９（３年生）を対象に３地区でスタートしました。

＜子ども達との顔合わせ。右端が稲垣氏＞

内容は、アイスブレイク、コーディネーション、ボールフィーリング、技術トレーニング、ゲーム、と現在と大きな変化はありませんでしたが、まさに手探り状態のアカデミーでした。

ただ、他県と明らかに違う点は“選抜”ではなく“公募”にしたことです。『参加したい子はすべて受け入れる！』という方向でスタートしました。ＪＦＡにも『エリートが参加するのではなく、参加する子どもがエリートである。』という栃木県の趣旨を伝え賛同も受けました。

そして、2011年にようやく１０地区すべてで『とちぎキッズアカデミー』を開催できるようになりました。

今年度よりスタートした両毛地区のアカデミーでは、選手５３名、指導者１４名の参加となり、子ども５人に対して指導者が１人付けるという、過去に例のないものとなりました。遊ぶ場面、考える（判断する・決断する）場面、技術を習得する場面、ゲームを楽しむ場面・・・。そのどの場面でも指導者がきちんと関われました。細かい点にも眼を配ることができ本当に中身の濃いアカデミーとなりました。

＜トレーニングの様子＞

子どもの成長には大人の関わりが必要不可欠です。サッカーをする子どもを増やすには子どもに関わる大人が増えなくてはなりません。また、その子ども達が楽しくサッカーををするためには、大人がサッカーを楽しく伝えなくてはなりません。

今回の両毛地区のアカデミーで、サッカーを愛するたくさんの大人に見守られてプレーできた子ども達は、きっとサッカーを楽しめたはずです。

今回の両毛地区のアカデミーで、サッカーを愛するたくさんの大人に見守られてプレーできた子ども達は、きっとサッカーを楽しめたはずです。

もちろん、これだけが成功例ではありません。ですから“もっといいアイディアを！”“もっといいものを！”と我々大人が常に『日々成長』を心がけて子ども達に接していくことが大切だと思います。

私自身も、今回の両毛地区のこの流れを栃木県全体に伝えるとともに、すべてのチームのすべての３年生が参加したくなるような最高の『とちぎキッズアカデミー』を展開していきたいと思います。そして、県内で1000名の子ども達が参加する日本一のアカデミーにしていきたいと思っています。

最後にになりますが、栃木のこの活動を日本中に発信して、多くの子ども達にサッカーの楽しさを伝えていきたいと思います。

キッズアカデミーU-9 in 両毛

両毛地区担当　柳田　浩

＜両毛地区担当＞
（左から常松氏、柳田氏、大川氏）

今年からいよいよ両毛地区でもキッズアカデミーがスタートしました。『サッカーを楽しみ、もっと好きになる。基礎の大切さと技術の向上。』をテーマに、充実したキッズアカデミーを行うことができました。子ども達の笑顔と元気いっぱいのプレーで保護者からも「子ども達がとても楽しそうだった。」「指導者がしっかりとサッカーを教えてくれた。」など高評価を得ることができました。参加者６０名ほどで３回の開催でしたが、とても有意義なものとなりました。何より良かったことは、各チームのスタッフや父兄の方々が一緒に声を出して委員のお手伝いをしてくださったことです。アイスブレイクでは、子ども達だけではなく大人も恥ずかしがらず和気藹々と楽しむことができました。基礎トレーニングやミニゲームのときはスタッフ一人に対して選手５～６人をしっかり見る各チームのスタッフ・サッカー経験者・保護者のみんなで子ども達に接し、両毛地区全体で地域の子ども達の技術向上を考えられるように、キッズ委員会が中心となって地区を引っ張っていく活動ができればいいと思います。

第１回北那須キッズフェスティバル

北那須少年サッカー連盟 キッズ委員長　大森　美幸

７月１６日に那須塩原市にてU－９、U－１０を対象としたキッズフェスティバルを開催しました。

キッズ委員会では、試合ばかりではなくサッカーを通して体を動かす楽しさ・面白さを少年期の経験して欲しいと思っています。

＜保護者も一緒にエアロビクス＞

今回は、全身を使ってのウォーミングアップをしようとエアロビクスの講師を招きました。会場内のすべての人が参加して楽しめるよう保護者の方にも声をかけ、子ども達と一緒にダンスを踊りました。子ども達も保護者の皆様も普段勝敗を決める試合とは違う笑顔が見られました。保護者の皆様からは、「楽しかったです。」とか「次は保護者だけでもやりたいですね。」など温かい声をかけていただきとても嬉しく思います。

＜天然芝での試合の様子＞

今回２６チームが参加してのリーグ戦を行い元気一杯のプレーが繰り広げられました。キッズエアロビの余韻があるのか、ゲームの合間に子ども達が踊っている姿も見られ、楽しい雰囲気の中で開催できたことに感謝しています。キッズプログラムの趣旨を大切にしつつサッカーに関わる子ども達の成長を見守りながら今後も続けていきたいと思います。

尚、北那須少年サッカー連盟では、年間を通して「キッズアカデミー」を開催しています。各チームでU－７、U－８、U－９の子ども達の参加をお待ちしております。個人参加で募集していますので是非ご参加ください。

フットサル連盟発足６年を迎えて

理事長　桜井　誠

栃木県サッカー協会の中で、私たちフットサル連盟も本年度で発足6年目を迎えました。連盟発足後、社会人連盟、女子連盟などから社会人主体の男女県フットサルリーグを引き継ぐなどして、現在はリーグに加え、男女の全日本選手権大会、全国大学大会、全日本ユース(U－15)女子大会などの県予選を主管、運営をしています。同時にフットサルの都道府県対抗大会でもある全国選抜大会やビーチサッカーの関東大会にも、本県からチームを出場させています。

男子リーグは連盟発足前の2003年に、社会人連盟主管のもと第1回男子リーグ(参加6チーム)がスタートし

▲参戦３年目を迎えた小山南高サッカー部

ました。そして9回目を迎える今年は、関東男子2部に三栄不動産FC宇都宮、関東女子にAmaralo／峰FC、県男子リーグに20チーム、県女子リーグに7チームが参戦する規模にまで発展しました。また近年では男子では小山南高サッカー部が県リーグ2部に、女子では泉が丘中サッカー部が県リーグに参戦するなど、若い学生たちの活躍も目立ってきました。

連盟発足前、本県は「フットサル後進県」の1つに挙げられ、関東大会などではワンサイドゲームでの初戦敗退も珍しくありませんでした。しかし近年は、各チームの奮闘もあり、頻繁にベスト4に勝ち残れるようにもなりました。これらも連盟を日々支えてくださっている関係者の皆さまのおかげと感謝しています。

当連盟は社会人連盟、女子連盟だけでなく、少年連盟、クラブユース連盟、県内各地区の連盟、フットサル委員会、審判委員会などと連係を取りながら、これまで公式戦を切り盛りしてきました。当連盟は歴史も浅く、小

公式戦を切り盛りしてきました。当連盟は歴史も浅く、小さな連盟です。引き続き皆さまに支えられながら、地道に活動していきないと思いますのでよろしくお願いします。

東日本大震災の公式戦への影響

3月11日、未曾有の大災害が東日本を襲った。体育館を“主戦場”とするフットサル連盟でも、事業運営で大きな影響が出ました。連盟では理事会を重ねるなどして対応を協議、以下のような対策をとり2011年シーズンをスタートさせました。

■県内体育館の状況

【通常使用が維持された体育館】

雀宮体育館（宇都宮）、足利市民体育館（足利）、栃木市総合体育館（栃木）

【10月１日現在で復旧作業等が終わり利用可能となった体育館】

県南体育館（小山）、県北体育館（大田原）、真岡市スポーツ交流館（真岡）

【公式戦利用ができなくなった体育館】

清原体育館、宇都宮市スケートセンター、明保野体育館（宇都宮）

【代替として手配した体育館】

旧キリン体育館（高根沢）、日立栃木体育館（栃木）　　※一部略称

■　　公式戦への影響

- ３月13日に開催予定だった2010年度男子リーグ入替戦を2011年５月22日まで延期。
- 初開催の予定だった3月13日の男女の県リーグオールスター戦を中止。
- 2011年度県男子リーグ１部、２部ともに例年より１ヶ月遅れでの６月にスタート。
- 女子リーグは２ヶ月遅れの８月にスタート。試合の一部を公立学校の体育館などで実施。
- ５月に関東大会があった男子選抜チームの練習会は、民間コートを利用し選手選考を行う。

初代王者はベンダバルＦＣ

県内フットサルの普及や、連盟と民間コートの交流などを目的とする「第１回栃木県フットサル施設交流決勝大会」を１月23日に大田原市の県北体育館で開催しま

交流決勝大会」を1月23日に大田原市の県北体育館で開催しました。県内民間フットサルコートに参加を呼び掛け、代表チームを選出してもらい計11チームで熱戦を展開しました。

決勝はベンダバルFC（SALU宇都宮）対NFC（那須塩原・ジョガボニート）と対戦となり、ベンダバルが3―1でNSCを退け初代王者に輝きました。

【参加チーム】NFC（那須塩原・ジョガボニート）、みどりU－20（大田原・那須フットサルパークみどり）、大和魂（日光・鬼怒川温泉フットサルクラブ）、ベンダバルFC（宇都宮・SALU宇都宮）、フォルテューナ（上三川・フットサル宇都宮）、ジョガーダ（小山・フットサル22）、足利御厨（栃木・フットサルバロン）、ミラコスタ（佐野・みかもRC）、ダイナマイトK（フットエナジー佐野）、パウリスタ、蹴人（栃木県リーグ）

▲初代王座に輝いたベンダバルＦＣ

30周年を迎えた女子連盟

委員長　井上知佐子

女子サッカー連盟はことし創立30周年をむかえました。皆さんもよくご存知の通りサッカーにおける女子サッカーの歴史はあまり長くはありません。

日本で女子がサッカーに携わるポジションといえば、長くはマネージャーなどが主でした。まして以前は、実際にサッカーをプレーすることは考えられませんでした。

1921年に日本蹴球協会が創立しましたが、その後、1979年になって初めてＦＩＦＡが各国のサッカー協会に宛て、女子サッカーを管轄下において普及と発展に努める旨の通達を出しました。日本蹴球協会が創立してから実に58年の歳月を経て、日本女子サッカー連盟が正式に発足したそうです。

本県の女子サッカーの歴史は、これより遅れることわずか２年、1981年に組織が立ち上がり連盟へと組織化されました。

現在登録チームは２１チーム（うち高校12チーム）。U-12からレディースまでのカテゴリーを担っています。年間の事業はどの連盟よりも多いといわれ、役員一同多忙な日々を送っています。その中での課題は「普及」と「強化」です。全国の中で、最も女子サッカーのレベルが高いといわれる関東地域にある本県は、各カテゴリーで関東突破が大きな壁となっています。

しかし一方で、本県からは日本代表の選手も多く、最近では、なでしこジャパンの安藤梢選手と鮫島彩選手が日本中に夢を与えてくれました。なでしこリーグにも多くの選手がいます。また、現在、U-19には坂本理保選手（河内SCジュベニール出身）、U-17には井上綾香選手も選出されていて、今後の活躍が楽しみなところです。

まだまだ、連盟としては微力ですが、引き続き女子サッカーの環境や競技会の充実、選手の育成のためにまい進していきたいと思っています。女子サッカーの発展のために皆さんのお力をお貸しください。

なでしこ、無敗でアジア予選を突破

鮫島選手から五輪に向けてコメント

歓喜の女子Ｗ杯優勝から１ヶ月。日本女子代表はロンドン五輪アジア最終予選（９月１～11日、中国・済南オリンピックスポーツセンターほか）に臨み、リーグ戦４勝１分けで見事、本選出場を勝ち取りました。本県関係者では、Ｗ杯に続きＤＦ鮫島彩選手、ＦＷ安藤梢選手が代表に名を連ね、最終予選首位突破の原動力となりました。現在、所属するフランスのモンペリエでも活躍中の鮫島選手に、今回の広報誌編集にあたり五輪本大会へ向けたコメントをいただきました。

鮫島選手コメント「五輪予選は予想以上に全試合が厳しい戦いとなりましたが、その中でも1試合1試合をしっかりと勝ちきり、五輪出場権を獲得できました。次の目標へ繋げていきたいと思います。また、アジア予選を勝ち抜いたこと

により次の目標が明確になりました。今後は五輪本大会に向けて、個々の更なるレベルアップとプレーの質の向上を追求していきたいと思います」

＜メモ＞最終予選で鮫島選手は全試合先発フル出場を果たした。安藤選手は先発出場1回（途中交代）、途中出場4回の全5試合に出場した。

井上綾香選手、U－16日本代表に

河内SCジュベニール所属のMF井上綾香選手がこのほど、U－16日本女子代表に選出され、「第7回日・中・韓国際女子サッカー大会」（7月12～14日、大阪・J－GREEN堺）、「アメリカ遠征親善試合」（8月22～31日、米国・ロサンゼルス）の2つの国際舞台を経験してきました。日・中・韓大会は全3試合に出場し1得点の活躍を見せました。またU－17アメリカ女子代表、U－16カナダ女子代表とそれぞれ2試合を行った米国遠征では3試合に出場し、北米地区の女子ユースのレベルを体感してきました。2つの国際大会を井上選手に振り返ってもらいました。

自分のチームではトップ下をやっていますが、代表では右サイドハーフで出場しました。日・中・韓国際大会では、監督からは「スピードを生かして抜け出せ」という支持を受けピッチに立ちました。プレーの内容では得点は決

▲米国遠征に参加した井上選手（後列左から３人目）ＣＪＦＡ

めましたが、トラップでミスをしてしまったり、ラストパスが雑になってしまったりで、自分としては納得できない部分もありました。米国遠征では、米国の選手の体の大きさが印象的でした。体も強かったです。ドリブル突破などでは相手の足に引っかかったりもしました。プレーの難しさを実感しました。

U―16では（早生まれの）自分が1番上の学年なので、年下の選手たちを引っ張っていかなくてはいけないと思っています。アジア予選を突破して本大会に出場できたら、試合の中でゴールにつながるようなパスを出したいです。

＜メモ＞U－16日本女子代表は、2012年にアゼルバイジャンで行われるU－17女子W杯に向けて編成された。アジア予選となるAFCU－16女子選手権は今秋、中国で行われ、上位3チームが本選への出場権を得る。

ＪＦＡフットボールデーの開催について

今年度のJFAフットボールデーに関するイベントについては、6月26日（日）に小山市で、9月23日（金）に栃木市で開催いたしましたので、ご紹介します。

なお、このJFAフットボールデーは、JFAの創立記念日である9月10日を「JFAフットボールデー」と制定し、多くのサッカーファミリーが集いサッカーファミリーの輪を広げる目的のため、平成20年度より県内各地で開催をしてまいりました。

今年度についても、これまで同様にJリーグ所属の栃木SCやJFL所属の栃木ウーヴァFCの協力を得て開催しております。

ＪＦＡフットボールデー 第４回栃木県サッカーファミリーフェスティバル ＩＮ　おやま　の開催

６月２６日（日）に小山運動公園の陸上競技場兼サッカー場において、第４回栃木県サッカーファミリーフェスティバルが開催されました。

このイベントは、小山運動公園陸上競技場の改修記念事業として、小山市並びに小山市教育委員会と県協会が共同で開催し、小山市サッカー協会の協力を得て実施したものであります。

当日は、朝９時からメイン会場である陸上競技

場において開会式を行い、その後、栃木ウーヴァFCの「キッズサッカー教室」や小学生を対象とした「栃木SCサッカー教室」などを開催しました。また、小中学生を対象とした「シュートスピード王決定戦」や「キッズキックターゲット」なども実施し、延べ参加者が480名、スタッフが94名、観戦者が約200名となり、総勢で774名のサッカーファミリーが集い、1日を通して盛大に交流が図られました。開催にあたりまして、ご理解・ご協力をいただきました参加者の皆さん並びに観戦者の方々、さらには、ご尽力をいただきました小山市並びに小山市教育委員会、そして小山市サッカー協会をはじめとした多くのサッカー関係者の皆様に、感謝を申し上げます。

ＪＦＡフットボールデー
第5回栃木県サッカーファミリーフェスティバル ＩＮ　とちぎ　の開催

9月23日（金・祝）に栃木市総合運動公園の陸上競技場をメイン会場に、第5回栃木県サッカーファミリーフェスティバルが開催されました。

このイベントは、栃木市と近隣の市町（藤岡町・大平町・都賀町）との合併により当該地区のサッカー協会も連携してこのイベントを最初の協働事業として実施をしようと栃木市サッカー協会が中心となって、第5回目の栃木県サッカーファミリーフェスティバルを開催したものであります。

主な内容は、イベントのコンセプトを多くのサッカーファミリーが集えるイベントとするため、キッズ年代から一般の社会人まで、さらには、フットサルの普及も考え、多くの種目を開催いたしました。

当日は、朝9時からメイン会場である陸上競技場において開会式を行い、その後、栃木ウーヴァFCの選手やスタッフによる「キッズサッカー教室」や小学生を対象とした「栃木SCサッカー教室」などを開催しました。また、小中学生を対象とした「シュートスピード王決定戦」や「キッズキックターゲット」なども実施し、多くの参加者を得て、盛大に開催されました。

午後は、「PK大会」や「ロングキックコンテスト」、「ファミリーフットサル教室」を開催するとともに、夜からは、体育館において「フットサルの交流試合」や「高校生選抜チームの交流試合」などが開催されました。

栃木市で初めて開催されたこのイベントは、延べ参加者が1，162名、スタッフが120名、観戦者が約300名となり、総勢で1，582名のこれまでで最高のサッカーファミリーが集い、1日を通して盛大に交流が図られました。開催にあたりまして、ご理解・ご協力をいただきました参加者の皆さん並びに観戦者の方々、さらには、ご尽力をいただきました栃木市サッカー協会をはじめとした多くのサッカー関係者の皆様に、感謝を申し上げます。

最後に、このフェスティバルもこれまでに宇都宮市、足利市、小山市、栃木市と開催してまいりました。来年以降も引き続き開催を計画しており、県北地域や上都賀・芳賀地域など、未開催地区への働きかけを進めてまいりたいと考えておりますので、各地区の協会関係者の方々もご検討をよろしくお願いいたします。

今後は、これを契機に県内のサッカーファミリーが増大し、本県のサッカーが発展することを期待いたします。

事業委員長　糸井　朗

審判委員会

審判委員長
十河　正博

今年度、前村上委員長から審判委員長の大役を引き受けた十河です。宜しく御願い致します。今までの経験を活かし、新指導体制のもと、審判委員会の活性化を図りたいと考えています。それには、目標を設定し、２級、３級への指導充実はもちろん４級審判員の育成、審判指導者の技術研修など事業計画に沿って実施します。是非、各部、各連盟の審判育成、強化に御協力していただければ幸いです。

技術委員会

技術委員長　川上

今年度より技術委員長を任されました川上です。どうぞよろしくお願い致します。

今栃木のサッカー事情は決して日本のトップに追随しているとはいえません。しかし、日本のトップは常に世界を見据え邁進しています。今ある現状を再確認し、私たちは前に進んで行かなければなりません。この栃木から世界で活躍する選手をさらに輩出できるよう、あらゆる面でサッカー環境を整備し、皆さんの力を集結させて頑張って行きましょう！

第66回国民体育大会 関東ブロック大会サッカー競技

【8/22(月)】
（成年男子）
茨城　０－１　神奈川
（女子）
茨城　２－０　神奈川

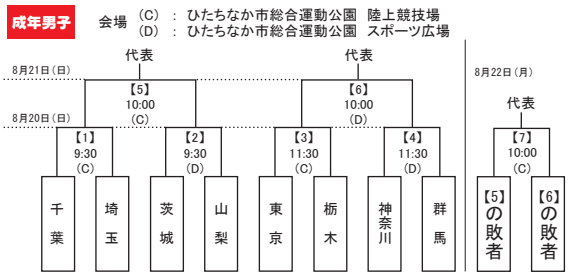
【8/21(日)】
（成年男子）
千葉（延長4－3）茨城
東京（3－1）神奈川
（女子）
千葉（3－1）茨城
山梨（3－1）神奈川

【8/20(土)】
（成年男子）
千葉（3-0）埼玉
茨城（3-1）山梨
東京（3-0）栃木
神奈川（2-0）群馬
（女子）
千葉（3-1）栃木
東京（1-1／延長pk3-5）茨城
埼玉（1-3）山梨
群馬（0-1）神奈川

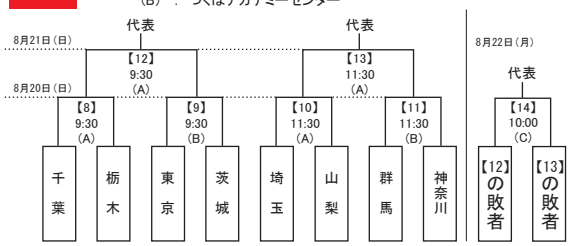
【8/19(金)】
（少年男子）
神奈川0(0-1/0-2)3埼玉
千葉3(0-1/3-0)1群馬

【8/18(木)】
（少年男子）
茨城1(0-0／1-2)2埼玉
神奈川0(0-1／0-0)1山梨
東京3(2-0／1-2)2千葉
群馬4(2-0／2-0)0栃木

第66回国民体育大会関東ブロック大会 サッカー競技 組合せ



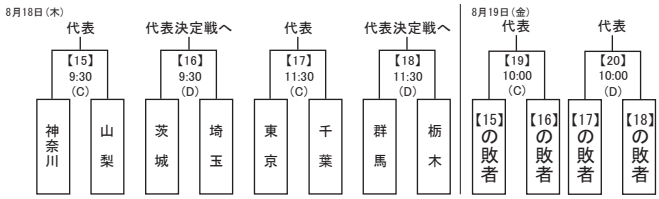
女　子　会場　(A)　：　セキショウ・チャレンジスタジアム
(B)　：　つくばアカデミーセンター



少年男子　会場　(C)　：　ひたちなか市総合運動公園　陸上競技場
(D)　：　ひたちなか市総合運動公園　スポーツ広場

U-16リーグ結果

Aブロック	1位	神奈川	2位	千葉	3位	群馬	4位	埼玉
Bブロック	1位	東京	2位	山梨	3位	茨城	4位	栃木



※【　】はマッチナンバー

平成23年度　（社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）

奥澤　直人
（株）竹石ビル
滝の原サッカーOB会
シノザキスポーツ
安達　賢二
佐野日大高校サッカー部 保護者会
北山　亮
（有）スポーツショップ ヤマトヤ
（株）神山商店
ユー福祉タクシー
FCブロケード　代表　早瀬　一男
大内中学校サッカー部 保護者会
鹿沼フットボールクラブOB会
石﨑　洋子
FCアネーロ宇都宮 根岸　誠一
鮫島　俊裕
FC西那須21アストロ 保護者会
高秀　四郎
檜山　達夫
宇東高サッカー部 親の会
FC西那須21槻沢
小池　一規
真岡SCアーギアOB会
天満屋　庄三
矢板中央高校 サッカー部
宇都宮北高サッカー部 OB会
ＯＭＦＣ
今市第三カルナヴァル
有限会社カタヤマ自動車
栃木信用金庫
大谷東FC 父母会
加藤　一男
宇都宮白楊高等学校サッカー部 保護者会
セレソン宇都宮SC
安納　明男
野木SSS
宇都宮大学サッカー部OB会　会長　手塚　操
円 印刷株式会社
菅野　道夫
川上　佳代
FCイーストキヨハラ
稲垣　浩充

（8月末現在）

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社